

第10章 地球温暖化問題

1 地球の温暖化

(1) 地球温暖化問題の概要

大気中の二酸化炭素濃度は、産業革命前の278 ppmから、現在は400 ppmを超えています。二酸化炭素など温室効果ガスの急激な排出により、1880年から2012年までで、地球の平均気温は0.85℃上昇しており、今後、更なる温室効果ガス濃度の増加により、21世紀末にはさらに気温が上昇すると予想されています。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第5次評価報告書（2014）によると、温室効果ガスの排出量が最も少なく抑えられた場合でも、0.3～1.7℃の上昇、最も多い場合は、2.6～4.8℃の上昇と予測しています。近年、局地的な集中豪雨や大雪、台風の増加、暖冬冷夏などの異常気象が多発しており、また、海面上昇や伝染病の発生などが懸念されています。

平成9年（1997年）の京都議定書や、平成27年（2015年）のパリ協定をうけて、我が国は中期目標を2030年に2013年比で温室効果ガスを26%削減することとしておりましたが、さらに令和2年10月に、国は「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」ことを宣言し、2030年度に2013年度比で温室効果ガスを46%削減すると表明するなど、新たな目標を設定し、実現を目指して取り組んでいくこととしています。

(2) 県における取組み

県では、県内における地球温暖化対策を一層推進するため、2006年3月に「福井県地球温暖化対策地域推進計画」を改定し、現在では「福井県環境基本計画」に「地球温暖化対策実行計画」を位置づけています。

この実行計画に基づき、地球温暖化ストップ県民運動である「LOVE・アース・ふくい」の普及啓発のために、「福井県地球温暖化防止センター」の設置し、自主的な地球温暖化防止活動の推進、省エネルギー・新エネルギーの導入、環境負荷の少ない交通対策

の推進などに取り組んでいます。

これまでも「1市町1エネおこし」による再生可能エネルギーの導入推進など、温室効果ガスの削減に向け、県民、事業者、各種団体、市町と共働して、各種施策に取り組んでいます。

(3) 市における取組み

平成22年度に「我が家のCO2CO2ダイエット計画」（越前市地球温暖化対策実行計画（家庭部門））を策定し、国内の二酸化炭素排出量の15%を占める家庭部門の温室効果ガス削減に向けて、太陽光発電設備の導入など取り組んできました。

さらに、国の「2050年カーボンニュートラル宣言」に基づき脱炭素社会実現のため、令和3年8月19日に「ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、また、令和4年3月に改定した市環境基本計画では、重点項目として「脱炭素社会の実現に向けた都市づくり」を掲げ、新たな取組みについて検討を始めています。

① CO2CO2（コツコツ）きっず大作戦

エコアクションビンゴに取り組む、楽しみながら地球に優しいライフスタイルを身につけることを目的に、夏休み期間中、小学5年生を対象として「CO2CO2きっず大作戦」を実施しています。令和4年度は341名の参加があり、参加賞としてバンブーエコカトラリーセットを配布しました。

表 10-1 CO2CO2 きっず大作戦参加者数

年 度	参加者数（人）
平成30年度	563
令和元年度	518
令和2年度	740(チラシ配布数)
令和3年度	334
令和4年度	341

② 公共施設屋根貸しによる太陽光発電設備普及事業

市内の太陽光発電設備の普及や公共施設の有効利用等を目的として、平成 24 年度及び 25 年度に太陽光発電事業を行う事業者由市公共施設の屋根の使用を許可し、再生可能エネルギーの導入を促進する事業を実施しました。公募型プロポーザル方式により事業者を決定し、市内の 6 施設の屋根に合計 243kW の太陽光発電設備が設置されています。設置された設備は、非常用の電源になるほか、環境教育に利用されています。

表 10-2 各施設の太陽光発電設備容量

施設名	太陽光発電設備容量 (kw)
吉野小学校屋内運動場	49.9
越前市広瀬勤労者研修センター	27.0
武生南小学校屋内運動場	48.6
白崎地区農業集落排水処理施設	39.6
越前市水循環センター	28.5
武生第一中学校屋内運動場	49.5

③ 市有街路灯等 LED 化事業

平成 25 年度から必要経費の圧縮を図りながら効率的市有街路灯等の LED 化を推進し、省エネルギー化と温室効果ガスの排出抑制を図るため、リース方式による LED 化事業を開始しています。

市が管理する防犯灯や道路灯、施設外灯など 2,351 灯の LED 化により、10 年間で 5,122MWh の電力量を削減し、3,396 t-CO₂ の温室効果ガス削減を見込んでいます。